

道内活動に1万8,400人が応募 東京2020オリ・パラのボランティア

東京2020オリンピック・パラリンピックを支えるボランティアの募集が締め切られ、競技場や選手村などで運営や観客



サービスなどをサポートする「大会ボランティア」は全国で20万4,680人が応募しました。希望は都道府県2カ所まで選択できますが、札幌ドームなど道内での活動を選択した人は1万7,249人でした。

またJR駅や地下鉄駅、空港などで訪れた観客などに交通案内や観光案内をする札幌市の「都市ボランティア」には1,207人の応募がありました。

オリンピックは2020年7月22日（開会式は24日）から8月9日まで、パラリンピックは8月25日から9月6日まで開催されます。このうち札幌ドームでは2020年7月22日から29日までオリンピックサッカー競技の男女のグループリーグが5日間10試合行われます。

都市ボランティアを募集した札幌市では今後、7月中に応募者のオリエンテーション（説明会、面談）を行う予定。必要数の2倍を超す応募者があったため、オリエンテーション参加者は、多言語など専門的な分野を考慮しながら原則抽選で選びます。採用通知は9月ごろで、その後12月に共通研修、2020年に役割別研修や配置場所研修が行われ本番を迎えます。

札幌市都市ボランティアの活動日は7月20日から30日まで。活動内容はJR札幌駅や地下鉄大通駅、新千歳空港での交通案内、観光案内、大会インフォメーション、シャトルバス出発地点の市内地下鉄駅、ドーム最寄りの地下鉄福住駅での競技会場案内、サポート、大会インフォメーション、また競技会場外でオリンピックを体験できるステージイベントなどの来場者案内を担当します。

一方、東京2020組織委員会が募集した大会ボランティアの男女比は女性が64%、男性が36%。外国人の応募は36%でした。

すでに2月から東京で応募者へのオリエンテーションと面談が始まっていて、東京のほか全国11か所でも7月までの日程で開催されます。札幌市では4月20、21の両日にオリエンテーション・面談が実施されます。



「会場の参加者と講師が様々な場面を想定してやりとりを繰り返したMICEボランティアセミナー」

国際イベントの対応力アップ

スポーツ大会を含め札幌で開かれる国際的なイベントなどで活動するボランティアの対応能力を高めるための「MICEボランティアセミナー」が3月7日、札幌市民交流プラザで開かれました。

さっぽろグローバルスポーツコミッションなどを運営する公益財団法人札幌国際プラザが、国際イベント誘致の拡大に向け外国語や接遇の能力を高めるために企画。多言語や観光ガイドなどのボランティアとして活動している人、活動を志す人など70人が参加しました。

札幌大学教授で札幌通訳研究会の会長も務める熊谷ユリアさんと市内の英語教師マシュー・コークさんを講師に、日本語が話せない英語圏の外国人に扮したコークさんと参加ボランティアが、温泉やデパート、北海道神社などさまざまな場面を想定してやりとり。講師から次々と問いかける質問に、ボランティアも軽快に会話やゼスチャーのキャッチボールを繰り返して、スキルアップを図っていました。

★編集後記★

北海道マラソン2019のインターネットでの出走エントリーが、開始6日目の3月8日午前で締め切られました。ランニングブームはまだまだ衰えを知りません。一方、ボランティアの募集は事務局で随時受け付けていますが、北海道マラソンボランティアも、いつかは、先着順！または抽選！になればうれしいなど。ところで私事ですが、ここ半年で一気に体重が増え、ランニングを始める前の数字に戻ってしまいました。スタッフ業やボランティアも良いですが、そろそろランも本気出さねば。(S)

北のスポボラを支援していただいた団体・企業

株式会社サッポロドラッグストア 一般財団法人 さっぽろ健康スポーツ財団 さっぽろグローバルスポーツコミッション
NPO法人 日本市民スポーツ海外交流協会 北海道マラソン2019組織委員会 北海道ロードレース事務局
創文企画「ランニングの世界」 西宮の沢バッティングパーク ピッチャーガエシ